科目名			担当教員	
特講（防災士研修講座）			水本　匡起	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
DT2250	1	1	S（講義）	1 年以上
生成 AI 利用レベル		試験（スクーリング含む）　：　C		

※この科目は、履修登録は不要です。『With』で案内する申込み手続きを開講日の３カ月前からすることで受講できます（休学中の受講不可）。

※他の科目と異なり、受講手続き（受講料の請求・教材の発送・事前提出レポートの受付）は本学防災士研修室が行います。スクーリング受講申込み者に、防災士研修室から詳細を案内いたします。

※防災士資格を取得するためには、①この講座を受講し、②最終コマに実施する「防災士資格取得試験」に合格し、③後日（もしくは当講座受講前）、お近くの消防署などで実施している「普通救命講習」を受講し、本学防災士研修室で資格取得の手続きをすることが必要です。

科目の概要

■到達目標

１）自助、共助、協働を原則とした防災士の活動理念について説明できる。
２）地震、津波、風水害等自然災害の発生の仕組みについて説明できる。
３）災害時の安否確認の方法、災害情報の収集、通報要領について説明できる。
４）地域や職場における災害リスク等を把握し、その対策について事例をあげて説明できる。
５）地域と連携した防災訓練指導や児童生徒への防災教育指導の方法について説明できる。
６）新たな減災や危機管理の手法について、具体例をあげて説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「倫理的実践力」を身につけてほしい。

■教科書・参考図書

【教科書】

特定非営利活動法人日本防災士機構『防災士教本』、2025 年版
東北福祉大学編『履修確認レポート』、2025 年版

【参考図書】

教科書の各章に参考文献を掲載しています。

■スクーリングで学んでほしいこと

防災士は、市民が行う防災行動に関して十分な意識・知識・技能を持った、地域社会における防災リーダーの役割が期待される存在である。講義では、ハザードマップや地震・津波のメカニズムをはじめ避難所の開設と運営の演習等 13 科目を受講、防災士として災害の事前対策、復旧・復興活動を含む応急対策に対応可能な幅広い知識と技術を習得する。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	近年の自然災害に学ぶ	東日本大震災など近年の地震・津波災害と教訓、火山噴火による災害と教訓、風水害による災害と教訓について。
2	被害想定、ハザードマップ	被害想定はどのように作成・活用されるか。ハザードマップには主にどのような種類があるか。
3	行政の災害対応	災害対策基本法はどのような法律か。国や地方公共団体が平常時に行っている防災対策について。
4	地震のしくみと被害	日本列島周辺が世界有数の変動帯となっているのはなぜか。「震度」と「マグニチュード」の違いについて。
5	津波のしくみと被害	津波発生のメカニズム、津波地震、遠地津波とは何か。津波による被害を軽減するためにはどのような対策が必要か。
6	身近でできる防災対策	地震に備えてやるべきことは何か。火災に備えてやるべきことは何か。被災後の暮らしを守るためにどうするか。
7	避難所の開設と運営①	避難所とは何か、避難所運営で配慮すべきことは何か。避難所の開設手順について。
8	避難所の開設と運営②	東日本大震災の被災地における事例や教訓を踏まえた演習で次の災害に備えた避難所の開設と運営について考える。
9	災害医療	災害医療の３つのＴとは何か。災害時に多発する可能性のある、注意すべき病態は何か。東日本大震災の災害医療の課題について。
10	災害情報の入手と活用	災害情報とは何か。被災者の情報ニーズはどのように変化するか。災害情報はラジオ、テレビ、新聞でどのように提供されてきたか。災害情報の新しい伝達手段はどうなっているか。
11	風水害と対策	日本の気候・地域特性と風水害の関係について。災害をもたらす気象現象にはどのようなものがあるか。「自助」としての水害対策にはどのようなものがあるか。
12	避難と避難行動	避難に関するしくみにはどのようなものがあるか。豪雨災害時の避難体制と課題は何か。東日本大震災における避難行動と津波防災教育の教訓は何か。
13	防災士の役割	防災士はどのようにして生まれたか。防災士はどのような場面で活躍するか。防災士に期待される役割とは何か。防災士の活動はどのように広がっているか。
14	災害とボランティア活動	災害ボランティアの多様性を理解するために、「災害」をどのように捉えればよいか。
15	防災士資格取得試験	日本防災士機構が実施する資格取得試験で、30 問出題され 24 問以上の正解者が合格。

※他の科目と異なり、1 コマ 60 分の講義です（試験を含み全 15 コマ）。

※各時間の担当講師は、募集案内に掲載される予定です。

■講義の進め方

配付資料をもとに進めます。途中グループワークを行います。

パワーポイントを使用し、途中ビデオなども見ながら講義を進めます。

■スクーリング　評価基準

防災士資格取得試験をスクーリング試験とし、試験合格の方のみに単位を付与します。

※単位修得はスクーリング受講および資格取得試験合格でできますが、防災士資格を取得するためには、各自でお近くの消防署などで申込み可能な「普通救命講習」を受講し、本学防災研修室で資格取得手続きをすることが必要です。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

お申し込みを頂いた方に「防災士教本」（日本防災士機構・編）ほか教材一式を、スクーリングの３週間前までにお送りします。スクーリングまでの間に、ご自宅で学習に取り組み、穴埋め式のレポートを完成させてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

講義を受けた科目を中心として、防災士教本の全体を復習してください。また、自然災害や防災に関するニュースなどに関心を持ち、常に最新情報を得るように心がけてください。